

「安心・活力・発展プラン2015」中間見直し委員会 全体会 委員意見要旨

No.	項目	発言要旨
1	時代の要請	<ul style="list-style-type: none"> ・今回のプランは5年間で達成可能な目標を記載していると思うが、将来的に達成したいという夢、大風呂敷のようなものを記載してもよいのではないか ・人口減少・衰退への歯止めといった、消極的な書きぶりに見えるため、攻めたようなものにできないか
2		<ul style="list-style-type: none"> ・施策を実施したら2100年に90～100万人という記載は、何も書いていないのと一緒ではないか ・これらの施策だけで、本当に人口減少に立ち向かうのは、実際には難しいのではないか ・最終的な指標は人口になると思うが、進行管理をする際には、人口をしっかりトレースし、その進捗をpushさせていくべき
3	子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・この計画が実現できれば子どもの幸せに繋がる、現場にいる者として責任を感じた ・児童虐待について、何か新しいものをすぐ立ち上げるとかだけでなく、今まで行われてきた様々な検診や育児サロン・サークル等の機能の充実等がのぞまれる ・育児ストレスが少ない県として全国上位であるなど、良い点をもっとPRすること、それが児童虐待防止にもつながる
4		<ul style="list-style-type: none"> ・児童クラブや保育所の待機について、本当に必要な子どもたちが待機しないようにすべき ・保育士や児童クラブ支援員等の人材について、「面倒を見て良い」という方々ともっと連携し、保育助手等としてもっと活躍できるように、柔軟に取り組んでほしい ・今後、児童館ができてくることはないと思うが、児童クラブがその役割を担っても良いのではないか ・大分県ならではの、子育て満足度日本一に向けた柔軟な取り組みを考えてほしい
5		<ul style="list-style-type: none"> ・部会では父親の育児参加、放課後児童クラブの増加などに対する切実な意見が多かった ・男性の子育て参画への機運醸成等、「男性」という言葉を明記したことは良かった ・実際に女性の意見や、育休が取れない男性等の生の声を聞きながら政策を進めていっていただきたい
6	健康寿命	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、独居老人が増加してくると思うが、孤独死に対する対策ができないか
7		<ul style="list-style-type: none"> ・医療提供体制について、県の主導により実行力のある検討を進めていただきたい
8		<ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者の育成・確保で、看護師も大切な要因であるため、「看護師、准看護師の育成・確保」といったことも記載してほしい
9	農林水産業	<ul style="list-style-type: none"> ・人材の確保は困難な課題であり、女性の働きやすいセミナー等も良いが、もっとそれを乗り越えた取り組みが必要 ・農山漁村づくりにおいては、まだまだ踏み込み足りないのではないか ・特に地方の元気には農林水産業が頑張る必要があるが、人材が増えるということがなかなか困難
10	先端技術	<ul style="list-style-type: none"> ・先端技術やIT分野に関して、全ての分野でデジタルトランスフォーメーションが進んでいくことから、可能であれば、どこからでも情報が集まるような専門部局を、県庁の中に作ってみてもよいのではないか
11		<ul style="list-style-type: none"> ・自動運転技術等、自動化が進むことは必然 ・日本を代表するような、交通モビリティの開発が進む県を目指せるよう取り組んで欲しい
12		<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化とグローバル化の世界の潮流を、いかに大分県が取り込んでいくか ・先端技術に取り組むのは良いが、そこにはリスクもあり、中小企業にとってはサポート体制も必要 ・デジタル化に対するサイバー攻撃等のリスクの記述はあった方がよいのではないか

No.	項目	発言要旨
13	海外戦略	・海外戦略について、輸出という意味では、発展途上の国にとっては技術力等は価値を持つものであり、技術が古くならない早いうちに取り組むべき
14	人材確保	・自動車関係では、メカニックの人材が特に不足しており、人材確保に苦勞している ・大分出身者が福岡の専門学校に行った場合、やはり戻らないといった生徒が多い ・待遇等で大分の企業は劣っているといった理由が考えられるが、人材が戻りたいと思う魅力をつくり、発展していけるような施策、大分づくりに取り組んで欲しい
15	人材確保	・外国人材の確保についても協力していただきたい
16		・外国人材の確保について、建設・介護など人手不足なところはなかなか自ら確保するのは難しい ・県も海外に拠点をつくってはどうか ・そこから中小企業等に情報発信したりしても良い
17		・新型コロナに関して、外国人労働者が風評被害に遭うような場面も
18		・世の中には食品ロス、生産ロス、人材ロスという3つのロスがある ・特に人材ロスにおいては、女性や高齢者を必要とすることが当たり前となった時代が来た際に、その人材の真価が問われる ・そのために、今、仕組みをしっかりとつくり、そういった人材に伴走型で支援できる大分県になって欲しい
19	女性の活躍	・女性の活躍について、最近では、「女性だから採用」や「女性だから意見を聞く」といった逆のバイアスがかかってきているということもある ・意欲、能力や向上心を持った女性であるということが重要であり、オピニオンからアクションに移していくというステップの際にも、女性自身が参画し、成果を出せる人なのかどうかということが重要 ・そのための仕組みをつくり、県民にも明確に伝わるようにして欲しい
20		・「地方創生の実現には、女性の活躍が不可欠」という文言が入ったが、この一言は非常に重い ・地方創生の視点としては以前はなかったことだが、この点に非常に期待したい
21	教育県大分	・子どもの教育において、学力といった基盤となるところをしっかりと進めると同時に、グローバル化に対応した人材の育成、地域に目を向けた人材を育成することも非常に重要 ・実業系の教育にもしっかりと取り組んで欲しい
22		・高等教育のあり方議論について、大学改革という中で文科省から方向性が示されたが、雇用の創出等を含め、県の主導でしっかりととりまとめていただきたい
23		・もう一つ国際的な大学をつくっても良いのではないかといい方もいたが、シリコンバレーとはいわないが、そういった可能性も大事にして欲しい
24	芸術文化	・国民文化祭、ラグビーワールドカップ2019など、レベルの高い・本物に触れる機会も増えてきたが、こういったもののレガシーをしっかりと残せるよう取り組んで欲しい ・教育でも、芸術文化においても、子どもたちが大分に居ながらにして、いかに本物に触れる機会をもてるかといったことにしっかりと力を入れて欲しい
25		・文化財は保存するだけでなく、活用することによってその魅力が伝わる ・特に子どもたちに見ていただく機会を多く設けていただきたい

No.	項目	発言要旨
26	スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ・高校スポーツでは、県立高校は私立高校に勝てなくなってきた ・やはり県立高校が何らかの形で活躍するというのが、スポーツ振興にとって必要なことではないか ・そういった点を計画にも加味していただけないか
27	計画推進	<ul style="list-style-type: none"> ・実行していく推進体制の記述が少しさみしい ・県民も一緒にやっていくという部分をもう少し記載しても良いのではないか ・「支援」というキーワードは多いが「協働」というキーワードは多くない ・支援という部分だけでは県は手が回らなくなってくると思うので、「協働」という部分にももう少し力を入れても良いのではないか
28		<ul style="list-style-type: none"> ・施策と、県のニーズをマッチさせるような「場」をつくり、キャッチボールをよくしながら施策を進めていっていただきたい
29		<ul style="list-style-type: none"> ・「分野別政策の概要」部分に以前と同様、目標とする数字をできるだけ記載して欲しい
30	計画推進	<ul style="list-style-type: none"> ・施策を実現させていくためには、県だけでなく市町村、企業、県民一人一人が理解する必要がある ・「県がやっていく」という思想を捨てるべきであり、県民一人一人が理解するための仕組みをどうしていくかということを考えていく必要がある
31		<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsについて、「計画推進」の中に位置付け、しっかり取り組んでいただくことはありがたい
32		<ul style="list-style-type: none"> ・2040年に、市町村がどの位の規模になり、県の財政がどうなっていくのか ・これらの施策が実現可能なのか、縦横の軸をそろえるため、各部局連携して実施して欲しい
33	全般	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し文言に気をつけていただきたい ・「マーケットインの商品づくり」について、「マーケットイン」や「プロダクトアウト」という言葉は古いと言われることも ・「コラボレーションした」などという使い方、「ビジネスパーソン」など